

第 24 回(2009.10.05 配信)

雲竹齋先生の歴史文化講座 - 「暦」

「月の行事にまつわる話」は 12 ヶ月過ぎて一巡したので、今度は「干支にまつわる動物の話」をしたい。これまでの話の必然性から、「旧暦」といわれている明治以前の暦の話とともに、年、月、日、時刻、あるいは方角などを表すために使われてきた干支(十干と十二支)についてたびたびふれてきたが、暦や干支について若干補足しながらおさらいをしておきたい。

季節がずれていく(西暦と旧暦)

明治以降、日本人の生活様式が急激に欧米様式に変化したが、現在私たちが使っている暦も「西暦」になった。西暦とは西洋から伝わったから西暦というのだろうが、この暦はキリスト教徒の暦であるといっている。略号を AD で表記するが、これは Anno Domini(アノ・ドミニ = 主の年に)の意味だし、紀元前を BC と表すのは Before Christ(= キリスト以前)の略からきている。明治以前の日本の暦は「旧暦」と呼ばれているが、この旧暦は「太陰太陽暦」だった。明治政府は、明治 5 年(1872)に太陰太陽暦にかわって「太陽暦」を採用し、日本独自の「皇紀」という紀元を制定したが、旧暦は今でも地方によっては旧正月やお盆、七夕などの行事などにその名残が見られる。

太陰太陽暦は、第 12 回「4 月は四月バカ」のところでふれたように、太陽暦に比べて 1 年におよそ 11 日短くなるから、3 年に 1 回閏月を入れてズレを補正した。もっと正しい暦にするためには、19 年に 7 回閏月を入れればよい。つまり、3 年に 1 度は 1 年が 13 ヶ月になるわけだが、これは春分が 2 月、秋分を 11 月、夏至は 5 月、冬至を 11 月と定めて、季節と暦がずれてきた時点で 1 月増やす。これが閏月で、たとえば 6 月から 7 月にかけて 1 月入れないと季節と暦のずれが大きくなると判断した場合は、6 月の後ろに閏月を入れるわけだが、この月は前の月の名前を継承して「閏 6 月」と呼んだ。

ちなみに、ユダヤ暦と呼ばれるイスラエルなどのユダヤ人が使う暦は、日本の旧暦と同じで太陰太陽暦である。また、イスラム教徒が使うイスラム暦は、純粋な太陰暦である。この暦では、1 月が 29 日と 30 日からなり、12 月で 1 年だが、旧暦やユダヤ暦のように補正はしないから、季節がずれていく。大切な行事などの場合、天文学が発達した現在でも月の満ち欠けを肉眼で見て判断するから、空が厚い雲で覆われていたら決定しない。だから、ラマダーン(第 9 月のこと。断食月間)などの行事でも、イスラム教国によっては、開始日や終了日などが若干ずれることがあり得る。雲竹齋は、中東に在住していたときに、「曇って月が見えないときは成層圏にジェット機を飛ばして確認しろ」といって、敬虔な信者から殺されそうになった。アラブ諸国もイスラエルも、国の行事や祭りはそれぞれの暦に従っているが、国際化時代の現在では、西暦が日常生活にある程度使われるようになってきた。恐るべきはキリスト教だ。

最近、若者の間では西暦を使う者が増えてきて、役所などの窓口で、「昭和」とか「平成」などという元号を記入する際に、西暦ではなぜいけないのか、と係の人に文句をいう者もいるが、「元号法」という法律で定められているから、国の機関では正式な文書は元号で記入する。したがって、地方自治体もこれに準じているわけだが、係員のなかにも、上司が古くさくていっこうに改めないんですよ、などと同調する者がいる。理由を知って知っているのかどうか

もっとも、この元号も使用を義務づける法律はないから、法的には一般国民に強制されない。また、明治 5 年の太政官布告によって日本独自の紀元が定められた。これが「皇紀」といわれるものだが、神武天皇が国を治めたと伝えられている年(紀元前 660 年)を皇紀元年とした。しかし、この皇紀は、太平洋戦争に負けた日本人が、天皇制に対する批判などから使わなくなったが、法律で

禁止されているわけではないので、現在も皇紀を使ったとしても、決して違反行為ではない。以前にもふれたように、この皇紀の紀元元年としている神武天皇即位の時代は、時代区分では縄文時代に当たるから、天皇自体の存在に信憑性が欠けるという意見もあるが、イスラエルの使っているユダヤ暦などでは、ユダヤ暦元年は西暦の 3760 年前とされている。これは『旧約聖書』に書かれてある天地創造から計算して出された数字であるという。どんな根拠があって、またどうやって計算したのかは知らないが、それに比べれば、日本人は細かいことにもこだわる生真面目な国民である。そのくせ、キリスト教徒でもないのにキリストの暦を使っている妙な国民でもある。今後、コンピュータ・システムの普及によって、元号より西暦の使用頻度がますます多くなっていくことだろう。そのうち雲竹斎の墓石まで西暦で書くようになっていたりして ああ嫌だ嫌だ。

数字がずれていく(月の名前)

1 年が 12 ヶ月あるのは、新月から次の新月までおよそ 29.5306 日だから、単純に計算して 12 ヶ月に分割したのだろう。こうした微妙な狂いは、地球自体が完全な球体ではなく、地球が太陽の周りを楕円を描いて回っていることや、地球の南北の極を結ぶ地軸がブレながら回転しているからである。もちろん、月や太陽の引力によって影響を受けていることでもあるのだが、引力とは恐ろしい。もしかすると、深夜に大した用もないのに街なかを徘徊する若者は、月の引力によって、脳みその軸が狂わされているからかもしれない。

西洋では、1 月から 12 月までいろいろな名前が付けられていたが、現在のようになったのはローマ帝国のユリウス・カエサル(シーザー)が制定したユリウス暦からである。1 月から 6 月まではローマ神話などからきた神の名称、7 月はユリウス・カエサル、8 月は初代ローマ皇帝のアウグストゥス、9 月から 12 月まではラテン語の 7~10 の意味だが、無理やり 7、8 月に自分たちの名前を入れてしまったので、9 月からはズレてしまった。数字が合わない！横暴だ！などと、目くじらを立てて文句をいうようでは、まだまだ君は大成しない。偉い人は、平気でそういうことをして、痛みは感じないものなのだ。

なお、1 ヶ月は週によって区切られている。なぜ 1 週間は 7 日なのか諸説があるが、『旧約聖書』の天地創造では、7 日でこの世が出来、7 日目に休息をとったとあるから、そこからきたのだという説が有力である。ちなみに、ユダヤ教では土曜日、イスラム教では金曜日、いずれも前日の日没から翌日の日没まで安息日だが、キリスト教では日曜日の午前 0 時から夜中の 12 時までとされている。私たちが現在使っている暦は、日曜日が赤色に塗られており、多くの職場が休日である。すなわち、キリスト教の習慣にそっているわけである。

1 週間は、日、月、火、水、木、金、土とあるが、これを中国の「陰陽五行説」からきた、木、火、土、金、水に太陽(日)と月を足したという人がいるが、どうも違うようだ。およそ紀元前 2 世紀ころのバビロニアか、ギリシャあたりで発明したのではないかといわれており、当時考えられていた天文学では、地球の周りを回っているのは、太陽、月、火星、水星、木星、金星、土星だと思われていたようだから、そこからきたものと思われる。ちなみに、紀元前 2 世紀は、日本では縄文時代の末期ごろにあたる。この日曜日から土曜日までの呼び方は、ヨーロッパ各国でそれぞれの呼び方があるが、わが国では英語名を使っている。Sunday は太陽の Sun、Monday は月の Moon から、そして水曜日からは、北欧神話の主神ウォーデン、その息子トール、妻フリッグ、土曜日はローマ神話のサトゥルヌスからきているという。これも、途中から妙な具合になっている。きっと、だれかが勝手に作ったものなのだろう。なんだかんだと理屈をつけながら、世の中は、いつもそんなものなのだ。